

## 12. 島根県雲南市

### 雲南市図書館サービス充実支援事業（平成18年度地域の図書館サービス充実支援事業）

#### (1) 事業の趣旨・概要

平成16年11月1日に近隣の6町村が合併して雲南市が誕生し、市内には3町に3つの図書館が配置されているが、山間部の旧飯石郡の3町には図書館が未設置で、しかも遠隔地であるため、サービスが十分に受けられない状況である。そのため、広域的かつ均衡あるサービスの検討が必要であった。

「雲南市教育基本計画」の基本目標を、「ふるさとを愛し心豊かでたくましい未来を切り拓く雲南市の人づくり」とし、それを具現化するため、生涯学習の分野においては、「市民参加による生涯学習社会づくり」を掲げている。こうした中、行政と市民との協働により、中山間地域における図書館サービスの充実を図るため、市民ボランティアの活用、図書館職員の体制整備、読書活動のネットワーク化等を検討し、新しい時代の中で利用しやすい図書館を目指した。

#### ※委託先・図書館の概要（平成20年3月末現在）

委託先	自治体・機関名	雲南市教育委員会生涯学習課		
	所在地	〒699-1392 島根県雲南市木次町木次 1013-1		
	連絡先	TEL 0854-40-1073		
		FAX 0854-40-1029		
URL <a href="http://www.city.unnan.shimane.jp/">http://www.city.unnan.shimane.jp/</a>				
図書館の概要（平成20年3月末現在）		木次図書館	加茂図書館	大東図書館
	職員数	5人（うち司書3人）	2人（うち司書1人）	2人（うち司書2人） ※加茂・大東の兼務館長は除く
	開館時間	火～日 10:00～18:00	金～水 10:00～18:00	日～木 9:00～17:00 土 12:00～16:00
	年間開館日数	271日	275日	283日
	蔵書数	59,918冊	29,313冊	39,660冊
	利用登録者数	10,308人	1,725人	1,101人
	年間利用者数	（入館）40,865人 （貸出）22,197人	（入館）22,483人 （貸出）9,300人	（入館）17,805人
	年間貸出冊数	80,368冊	29,794冊	26,768冊
	運営状況	現在、木次図書館、加茂図書館にはコンピュータが導入されているが、システムの互換性がなく、オンライン化はされていない。また、大東図書館はコンピュータ未導入である。そのため利用登録は館ごとになければならない。職員は、大東図書館に市職員の司書が1名いるのみで、他の2館は嘱託・臨時職員により運営されている。図書館未設置の三刀屋、吉田、掛合の3町には、それぞれ永井隆記念館、吉田公民館、掛合公民館内に図書室が設置されている。		

#### ※地域の現況・特色

<p>雲南市は島根県の東部に位置し、平成16年11月1日に大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村、掛合町の6町村が合併して発足した市である。合併後も少子・高齢化、過疎化の進行や、行政区域の拡大によりサービスの格差が生じるなど、様々な課題を抱えている。市内には旧大原郡3町に木次図書館、加茂図書館（平成18年4月開館）、大東図書館の3館の図書館が設置されているが、山間部の旧飯石郡地域には図書館が未設置である。</p> <p>面積：553.37km<sup>2</sup> 人口：4万4千人</p>
---

## (2) 事業の実施体制

事業の実施にあたっては、以下の2つの委員会等を組織した。

### ① 図書館サービス充実支援実行委員会

#### <委員構成>

市教育委員会教育長、市図書館協議会会長、市図書館協議会副会長、市議会議員、市立幼稚園長、市立小学校校長、市PTA役員2名、読書ボランティア6名、地区公民館長2名、市立各図書館長3名、市教育委員会生涯学習課長、生涯学習課職員2名、市教育委員会地域教育コーディネーター（島根県教育委員会より派遣）2名 計24名

#### <主な役割>

事業全般に関する検討、先進地視察

### ② 読書活動関係者ネットワーク会議

#### <委員構成>

読書ボランティア6名、市立各図書館司書3名、市教育委員会生涯学習課長、生涯学習課職員2名、市教育委員会地域教育コーディネーター2名、市教育委員会学校教育課教育支援コーディネーター7名 計21名

#### <主な役割>

各図書館の年間事業等の情報交換、図書館フェスティバルの検討、読書ボランティアに関することの検討

## (3) 事業体系

実施した事業は下記の4つである。

① 来館が困難な市民への対応	i 遠隔地の市民、特に高齢者や車を持たない市民は来館が困難であるため、市民バスを活用したシステムを検討し、利便性を図る ii 団体貸出の手続きを簡素化し、市民の利便性を図る iii 総合センターを活用した図書返却システムを導入する
② 市民が主役の図書館づくり	i しまね教育ウィークの期間を中心に市内の図書館3館で「雲南市図書館フェスティバル」を開催する
③ 読書ボランティア養成とネットワークづくり	i 学校や地域で読書活動をするボランティアを養成するための講座を設ける ii 既存のボランティアグループのほか、新規のグループを結成し、多様なニーズに応える iii ボランティア同士の交流を図り、ボランティアの資質向上を図る iv 読書活動関係者のネットワークの構築を図る
④ 広報活動	i 広報「うんなん」に新刊図書の紹介や子ども読書のすすめを掲載する ii 図書館情報を市のホームページに載せ、積極的な情報提供に努める iii 有線テレビを活用し、利用者の声やボランティア活動の状態等様々な場面を紹介する iv CATV局と連携して読書活動のための番組づくりを行う

## (4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

近隣の6町村が合併して間もない時期であり、まず市内3図書館の連携を図り、一体感をもてるような事業を模索していた。また、図書館未設置地域の旧飯石郡の3町は図書館から遠隔地であるため、サービスが十分に受けられない状況であり、こうした市内の図書館サービスの地域間格差を是正するため、広域サービスの方策や利用が困難な高齢者や体が不自由な住民へのサービスの方策などを検討する必要がある。同時に、職員やボランティアなどの人材育成とネットワーク化も急務であった。そこで行政と市民との協働による図書館サービスの充実を図るための方策を、様々な事業を実施することにより見出し、また同時に実現するための課題を見つけたいと考えた。



### <19年度以降の取り組み>

19年度以降は木次図書館、加茂図書館がそれぞれ独自に図書館まつりを実施している。大東図書館は建て替え準備等のため19年度以降は未実施。

### ③読書ボランティア養成とネットワークづくり

#### i 学校や地域で読書活動をするボランティアを養成するための講座を設ける

##### ○子ども読書に関する講演会

講師：島根県立図書館読書普及指導員

対象：一般市民 他（40名参加）

##### ○読書ボランティア養成普及事業

内容：子ども読書会による絵本の読み聞かせについての実演

全6回実施 各回14名～22名参加

##### ○読書ボランティア啓発普及事業

内容：子ども読書会指導者による絵本の読み聞かせについての実演

第1回一対象：一般市民 他（30名参加）

第2回一対象：一般市民 他（26名参加）

#### ii 既存のボランティアグループのほか、新規のグループを結成し、多様なニーズに応える

##### ○第1回図書館ボランティア講座

演題：地域づくりについて

講師：大分県佐伯市観光大使

対象：地域住民、ボランティアグループ（120名参加）

##### ○第2回図書館ボランティア講座

演題：子どもへの読み聞かせ

講師：児童文学作家

対象：幼稚園・小学校の保護者、地域住民、ボランティアグループ（100名参加）

#### iii ボランティア同士の交流を図り、ボランティアの資質向上を図る

市内図書館3館、図書室3室にそれぞれ専属の読書ボランティア団体があり、区域内の小学校の朝読書活動への支援を積極的に行っている団体もある。地区によりボランティア団体の情報交換会を実施している。

また、読書ボランティア以外にも、図書の貸出・整理等、図書館の運営に関わるボランティア団体も存在し、今後、図書室などの管理運営そのものを地域団体へ委託する可能性を探ることとなった。

地区公民館での子ども読書会の様子



##### ○大東図書館 子ども読書会指導員会

大東町の各小学校で活動している読書ボランティア（子ども読書会指導員）は月1回土曜日に地区の公民館、集会所等を使って読み語りの会を行っている。子ども読書会指導員は連絡会をもち交流している。

## <ボランティアが図書館運営に関わっている事例>

### ○掛合図書室「陽だまり館」 運営委員会

元々公民館活動が活発で地域密着型の地域であった。昭和 50 年代頃から小学校単位での読み聞かせ活動が活発で、そのボランティアの連絡会が年に数回行われていた。平成 17 年 3 月に掛合公民館内に掛合図書室が開館する際、ボランティアのメンバーに声かけがあり、公民館主事、保育所職員なども入った運営委員会が結成された。現在、運営委員会が委託料を受け「陽だまり館」を運営している。

活動内容：新刊の選書・受入、日曜日の図書の貸出、図書整理、読み聞かせなど、図書室の運営全般を委託されている。

※ボランティアの 1 人が司書の有資格者で、選書を担当している。

会員数：35 名

蔵書：委託料の一部に図書購入費がついているが、図書室には原則として図書購入の予算はついていないため、寄付金（図書カードなども含む）や寄贈本で図書を整備している。また、県立図書館の団体貸出を利用している。

### ○加茂図書館 ラブブッククラブ

地域住民の要望から図書館開館に結びついた地域だったため、地域の方に図書館運営に協力してもらう体制づくりを開館前に整えようと、県教育委員会から市に派遣された地域教育コーディネーターが中心となり、ボランティア養成講座を実施した。その養成講座受講者から「ラブブッククラブ」が発足した。

活動内容：環境部－花壇の手入れ、図書の整理・整頓、図書館内の清掃

美化部－市内の文化団体・個人・児童生徒の作品展示の企画（展示期間 1 ヶ月で交替）

読み語り部－月 1 回第 3 土曜日におはなし会を実施

※以上 3 つの部に分かれて活動しているが、複数の部に所属している会員もいる

全体活動一月 1 回の定例会（全体の活動報告）、図書館まつり、蔵書点検時の清掃の手伝い

会員数：34 名（男性 10 名、女性 24 名）

シニア世代が多いが、読み語り部には 30、40 代の女性が数名いる。新規加入者が毎年 1～2 名いる。

★上記活動以外にも、行事の際、メンバーによる知人への口コミはかなり広報力があり、そういう力も図書館サポーターとして重要である。



美化部による企画展示



読み語り部によるおはなし会

### 【取り組みのヒント】

読み聞かせ活動以外にも、図書館運営の様々な場面で地域のボランティアに関わってもらうことで、様々な可能性が広がる。

#### iv 読書活動関係者のネットワークの構築を図る

##### ○読書活動関係者ネットワーク会議

読書ボランティア、市立3図書館司書、教育委員会生涯学習課職員、学校教育課教育支援コーディネーターが一同に会し、情報交換を行った。

※18年度のみ実施した。19年度以降は、市図書館協議会の委員に各図書館・図書室で活動している読書ボランティアが入っていることから、図書館協議会の場で対応している。

#### ④広報活動

##### i 広報「うんなん」に新刊図書の紹介や子ども読書のすすめを掲載する

広報「うんなん」に図書館のスペースがあり、新刊だよりなどを掲載して、図書館情報のPRを行っている。

※19年度以降も継続

その他、各館の図書館だよりで広報している。3館共通の図書館だよりは無い。

##### ii 図書館情報を市のホームページに載せ、積極的な情報提供に努める

図書館専用のホームページはなく、市のホームページに各図書館の概要・利用案内を掲載している。また、木次図書館通信、加茂図書館通信はホームページ上で閲覧できる。

##### iii 有線テレビを活用し、利用者の声やボランティア活動の状態等様々な場面を紹介する

以前から行事がある度に図書館側から有線テレビにアプローチしていたこともあり、有線テレビ側も図書館のPRに積極的に協力してくれた。職員、ボランティアが番組に出演し、新刊図書の紹介などをする体制をつくった。

※18年度の実績：図書館フェスティバルの様子が有線テレビで放映された後、図書館の利用者が若干増加した。

広報「うんなん」の図書館のページ



#### <19年度以降の取り組み>

19年度以降も定期的に図書館の活動・行事紹介、新着本・話題の本の紹介などで「CATV雲南夢ネット」の「図書館だより」の番組に職員やボランティアが出演している。

※平成19年度の出演回数：木次図書館—7回 大東図書館—7回 加茂図書館—4回

※平成20年度はボランティア団体が企画した事業をボランティア団体自身がCATVから借りたカメラで撮影し、それを放映してもらったという実績がある。

#### 【取り組みのヒント】

雲南市の各図書館・図書室は旧町単位での地域密着型の利用が多く、市外からの利用はほとんどない。そのため、市の広報紙の他に有線テレビ、有線放送・防災放送が身近な広報媒体としてかなり有効となっている。地域の実情に合わせた広報媒体の活用が大切である。

#### iv CATV局と連携し読書活動のための番組づくりを行う

市内のボランティアサークルの紹介を専門とする番組を社会福祉協議会等との協力により制作することを目的として、「番組制作連絡会議」（仮称）の発足を19年度に目指したが、20年度までは実現していない。

## (6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

### ①事業の成果・効果

事業の主な成果・効果は次のとおりである。

#### i 団体貸出システムについての市民への積極的PRについて

大東地域を中心に各図書館とも登録団体数が増加し、図書館未設置地区の利用も含め、市民の利用促進につながった。

##### <団体貸出（配本活動も含む）登録団体数>

図書館名	平成 18 年度	平成 19 年度
木次図書館	56 団体	63 団体
大東図書館	25 団体	47 団体
加茂図書館	10 団体	11 団体

#### ii 総合センターを活用した図書返却システムの導入について

利用した高齢者、体が不自由な人からは「便利になった」「本に触れる機会が増えた」と好評で、図書館未設置地域の利用者が増加した。

#### iii 市内図書館3館における「雲南市図書館フェスティバル」の開催について

3館同時開催のため職員同士の連携と一体感が醸成された。読書ボランティア団体の活動紹介が新規会員の加入につながるケースもあり、また、司書の役割や地域活動拠点としての図書館の必要性が市民に理解される場となった。

#### iv 図書館ボランティア講座の開催について

地域活動や読み聞かせ活動の参考になったと好評を得た。また、ボランティア同士の交流も図られ、その後、相互に連絡しあうなどの交流に発展した。

#### v 読書活動関係者ネットワーク会議について

各機関が実施している取り組みを共有できたことにより、同じような内容の事業は連携・共催するようになり、また各館のボランティアが互いの行事や研修等に参加しあうようになった。

### ②事業実施後の取り組み

本委託事業で取り組んだような全館を挙げての事業は19年度以降はないが、「市民が主役の図書館づくり」を目指し、個々の図書館等で活動するボランティアの主体的な事業が活発に行われている。

##### <3館協働事業に取り組みにくい要因>

3館の開館日が異なることと、元々の職員数自体が少ないため、全館で取り組むための日程調整をするのが困難な状況がある。年に数回、全館職員の連絡会議をもつのが精一杯の現状である。

##### <20年度実施の市民団体との共催事業>

- 「岡信子さんと絵本語りの会」：雲南市民で童謡を歌おう会、雲南市図書館協議会が共催
- 「みすゞの詩コンサート」：雲南市民で童謡を歌おう会、雲南市木次図書館、雲南市教育委員会が共催
- 「絵本にのせるメッセージ」：永井隆記念館“うちの本箱”、雲南市図書館協議会が共催

## (7) 課題と今後の展望

### ①課題

課題としては主に次の2点が挙げられる。

#### i 来館が困難な市民への対応

当初、遠方から来館しにくい人（高齢者、身体の不自由な人等）に対して市民バス活用による来館支援を考えていたが、高齢者は来館してもらうより、図書館側から出向くサービスのほうがよいということで未実施である。今後もその方策を検討することが必要である。

#### ii 人材の育成、人員体制の整備

図書館司書や関連業務を行う人材の育成が急務であり、人員体制の整備も検討課題である。また、今後も様々な場面でボランティアとの協働が考えられるが、地域人材の養成とその活用を調整していく職員の確保なども求められる。

### ②今後の展望

今後の展望は次のとおりである。

#### i 市立図書館と市内学校図書館のデータ統一

財政難の状況で、十分な図書購入費の計上が見込めない中、既存の図書を有効に活用していく必要があるため、市立図書館と市内学校図書館のデータ統一を計画している。

⇒WEB公開用サーバー上で加茂図書館、木次図書館の蔵書データ、市内小・中学校蔵書データを共有化し、家庭、学校からも蔵書検索ができるような図書館ネットワークシステムを検討している。学校からもアクセスできることで、特に図書館未設置地域の小・中学校の利用促進を期待している。

また、平成20年度から国の補助事業で各小・中学校に配置されている地域コーディネーターや21年度から県の補助事業で配置される予定の学校図書室ボランティアなど、地域の人を借りて、学校図書室の図書の整理、データ化を考えている。

#### ii 雲南市社会福祉協議会との調整

平成18年度に、雲南市ボランティアセンターの機能を図書館の中に併設し、ボランティア情報も含め、情報発信を図書館で行う形に移行してはどうかという検討を行ったが、ボランティアセンターを設置している社会福祉協議会自体も合併により1つになったため、現在も体制整備を行っている状態である。引き続き協議していく予定である。